

## 貯蓄の状況

### 1 概況

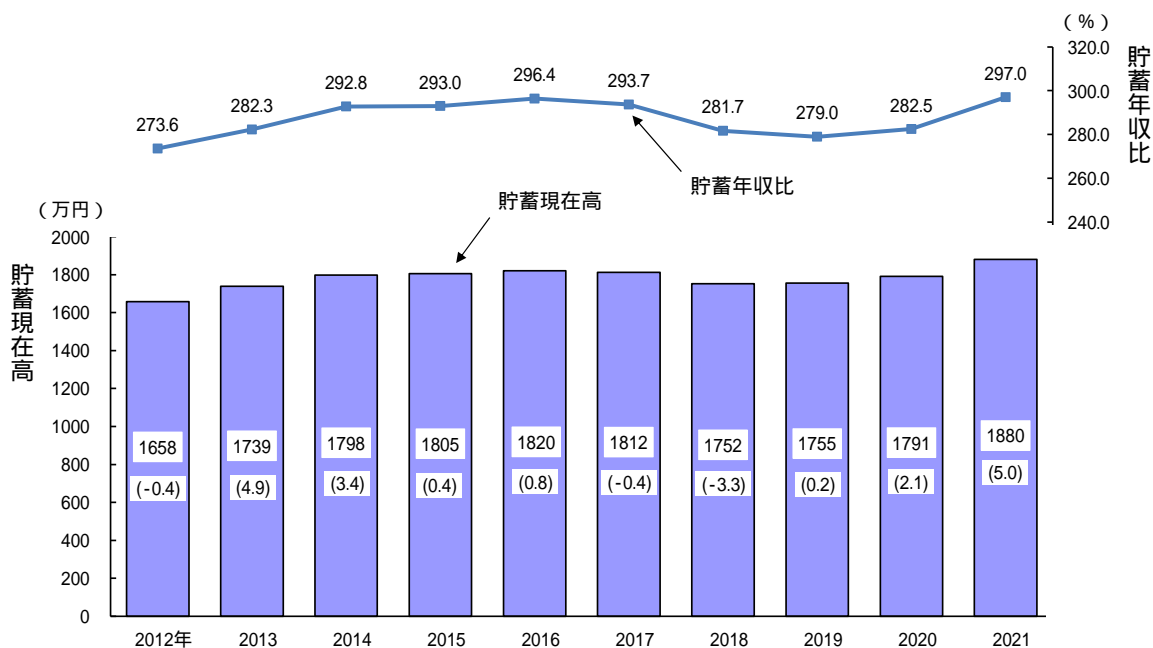
#### (1) 貯蓄現在高は1880万円で3年連続の増加

二人以上の世帯における2021年平均の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）<sup>1</sup>は、1880万円で、前年に比べ89万円、5.0%の増加となり、3年連続の増加となるとともに、比較可能な2002年以降で最多となっている。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値は、1104万円（前年1061万円）となっている。また、年間収入は633万円で、前年に比べ1万円、0.2%の減少となり、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は297.0%で、前年に比べ14.5ポイントの上昇となっている。

1 貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた平均値

（図I-1-1、表I-1-1）

図I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）



注)( )内は、対前年増減率(%)

表I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 <sup>2</sup> (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2012年	1658	606	-0.4	-1.0	273.6	1001
2013	1739	616	4.9	1.7	282.3	1023
2014	1798	614	3.4	-0.3	292.8	1052
2015	1805	616	0.4	0.3	293.0	1054
2016	1820	614	0.8	-0.3	296.4	1064
2017	1812	617	-0.4	0.5	293.7	1074
2018	1752	622	-3.3	0.8	281.7	1036
2019	1755	629	0.2	1.1	279.0	1033
2020	1791	634	2.1	0.8	282.5	1061
2021	1880	633	5.0	-0.2	297.0	1104
						(1026)

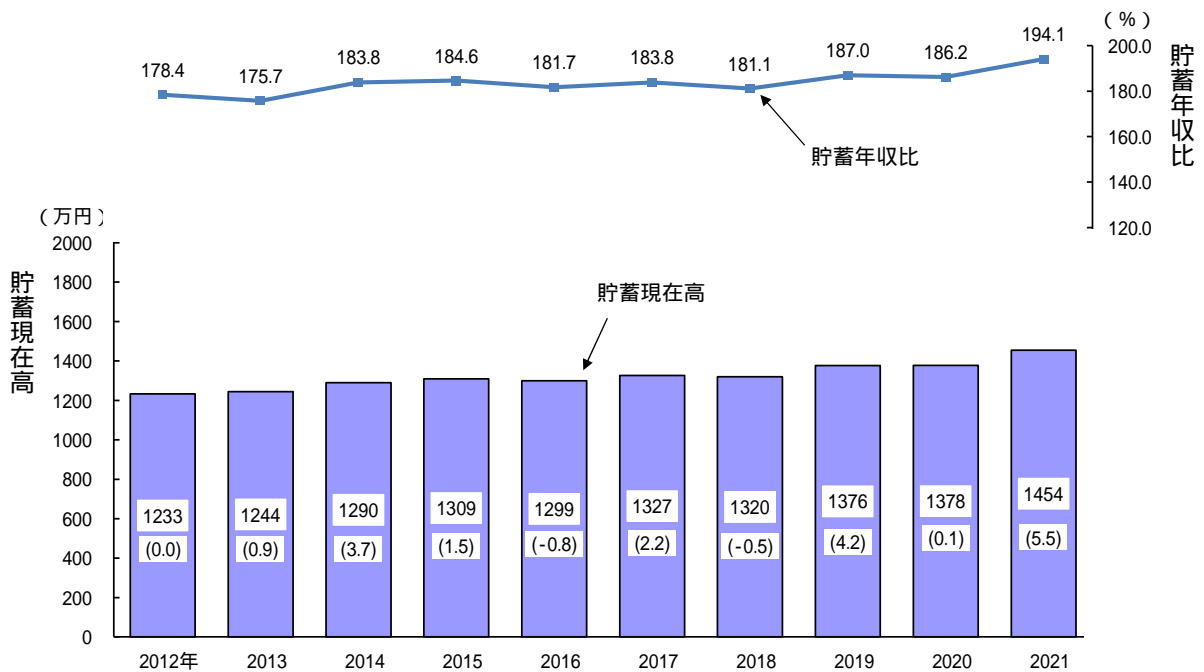
2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯（以下「貯蓄「0」世帯」という。）を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。（ ）内は、2021年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値（参考値）

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合54.9%）についてみると、貯蓄現在高（平均値）<sup>1</sup>は1454万円で、前年に比べ76万円、5.5%の増加となり、貯蓄保有世帯の中央値は833万円（前年826万円）となっている。二人以上の世帯全体と比べると、平均値、貯蓄保有世帯の中央値共に低くなっている。また、年間収入は749万円で、前年に比べ9万円、1.2%の増加となり、貯蓄年収比は194.1%で、前年に比べ7.9ポイントの上昇となっている。

1 貯蓄「0」世帯を含めた平均値

（図I-1-2、表I-1-2）

図I-1-2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注) ( ) 内は、対前年増減率 (%)

表I-1-2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 <sup>2</sup> (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2012年	1233	691	0.0	0.3	178.4	757
2013	1244	708	0.9	2.5	175.7	735
2014	1290	702	3.7	-0.8	183.8	741
2015	1309	709	1.5	1.0	184.6	761
2016	1299	715	-0.8	0.8	181.7	734
2017	1327	722	2.2	1.0	183.8	792
2018	1320	729	-0.5	1.0	181.1	798
2019	1376	736	4.2	1.0	187.0	801
2020	1378	740	0.1	0.5	186.2	826
2021	1454	749	5.5	1.2	194.1	833 (784)

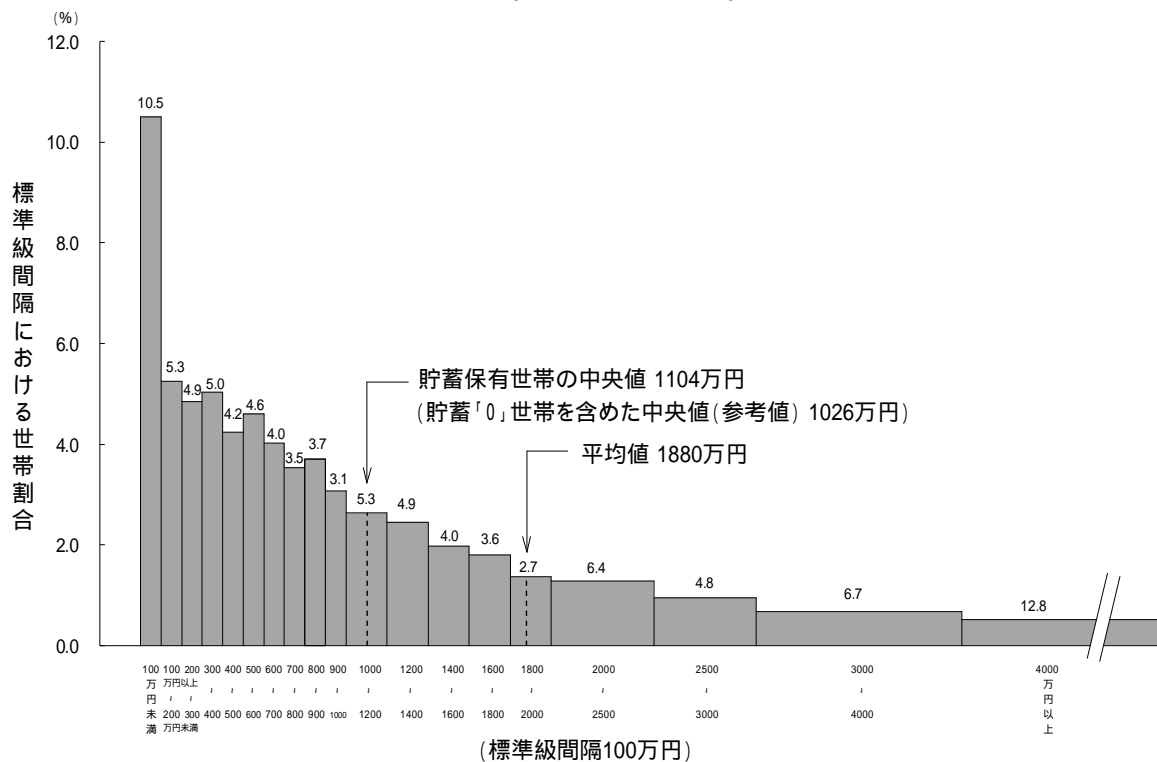
2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。( ) 内は、2021年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値(参考値)

(2) 貯蓄現在高が平均値（1880万円）を下回る世帯が約3分の2を占める

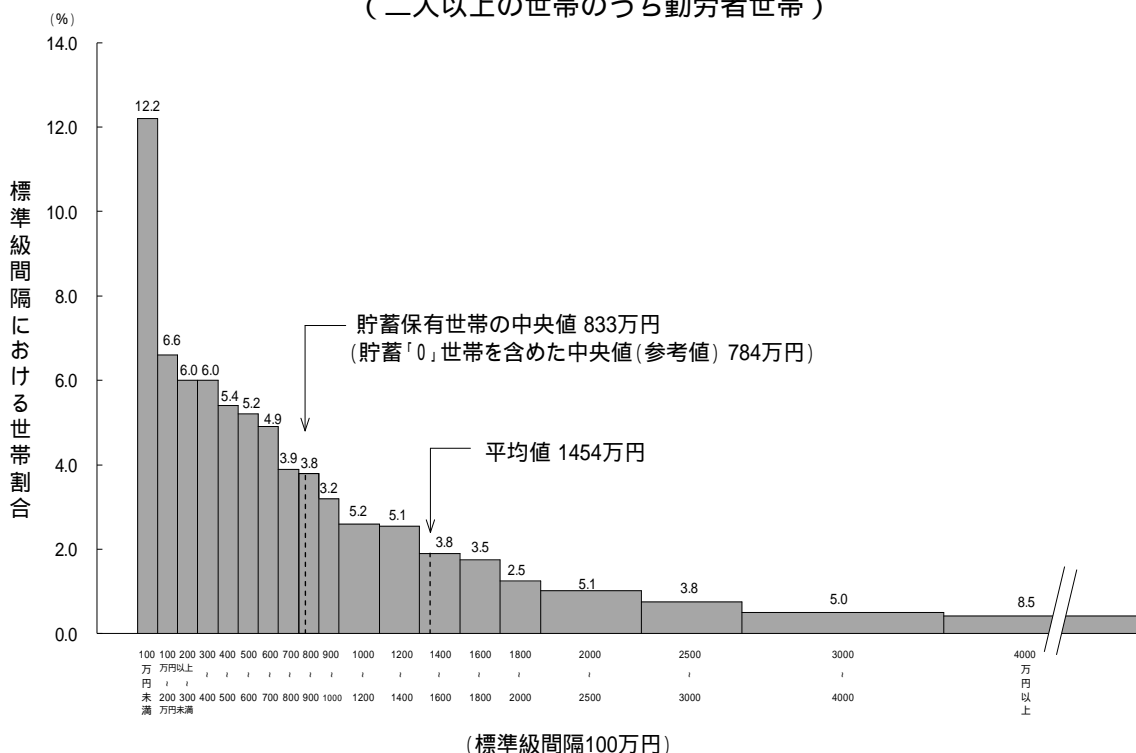
二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高の平均値（1880万円）を下回る世帯が67.6%（前年67.2%）と約3分の2を占めており、貯蓄現在高の低い階級に偏った分布となっている。

(図I-1-3)

図I-1-3 貯蓄現在高階級別世帯分布 - 2021年 -  
(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



注) 標準級間隔100万円（貯蓄現在高1000万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、貯蓄現在高1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

## 2 貯蓄の種類別内訳

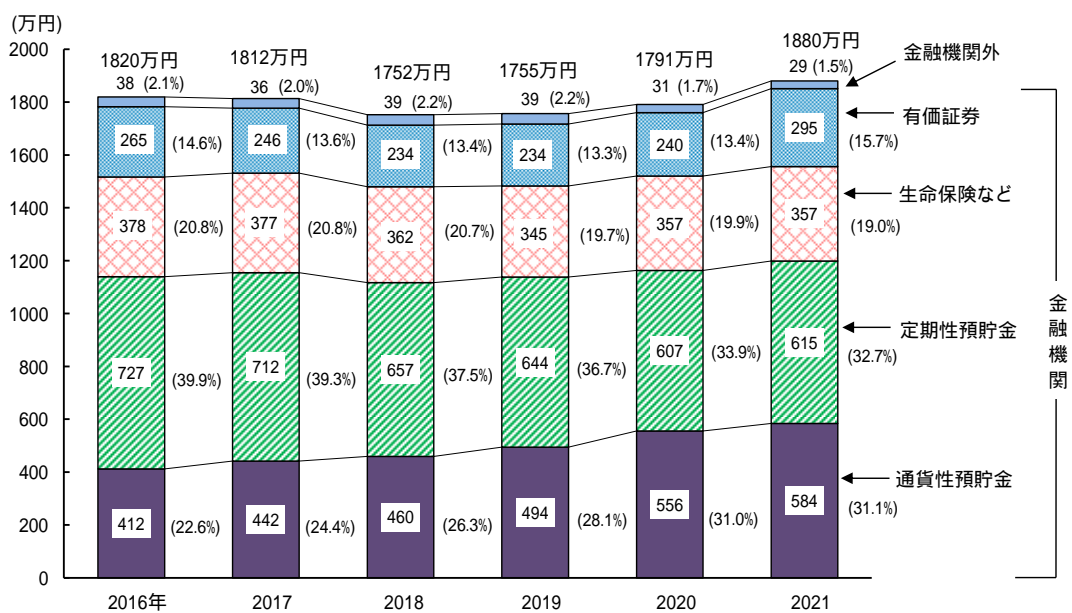
### 通貨性預貯金は13年連続の増加

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が615万円（貯蓄現在高に占める割合32.7%）と最も多く、次いで通貨性預貯金が584万円（同31.1%）、「生命保険など」が357万円（同19.0%）、有価証券が295万円（同15.7%）、金融機関外が29万円（同1.5%）となっている。

2020年と比べると、通貨性預貯金、定期性預貯金及び有価証券は、増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ28万円、5.0%の増加となり、13年連続の増加となっている。定期性預貯金は、前年に比べ8万円、1.3%の増加となり、7年ぶりの増加となっている。

（図I-2-1、表I-2-1）

図I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



注) ( )内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関										金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	貸付信託 金銭信託	株式	債券	投資信託			
金額 (万円)												
2016年	1820	1782	412	727	378	265	17	-	-	-	-	38
2017年	1812	1777	442	712	377	246	13	-	-	-	-	36
2018年	1752	1712	460	657	362	234	11	-	-	-	-	39
2019年	1755	1716	494	644	345	234	12	-	-	-	-	39
2020年	1791	1761	556	607	357	240	8	123	29	80	31	
2021年	1880	1851	584	615	357	295	7	152	33	102	29	
構成比 (%)												
2016年	100.0	97.9	22.6	39.9	20.8	14.6	0.9	-	-	-	-	2.1
2017年	100.0	98.1	24.4	39.3	20.8	13.6	0.7	-	-	-	-	2.0
2018年	100.0	97.7	26.3	37.5	20.7	13.4	0.6	-	-	-	-	2.2
2019年	100.0	97.8	28.1	36.7	19.7	13.3	0.7	-	-	-	-	2.2
2020年	100.0	98.3	31.0	33.9	19.9	13.4	0.4	6.9	1.6	4.5	1.7	
2021年	100.0	98.5	31.1	32.7	19.0	15.7	0.4	8.1	1.8	5.4	1.5	
対前年増減率 (%)												
2017年	-0.4	-0.3	7.3	-2.1	-0.3	-7.2	-23.5	-	-	-	-	-5.3
2018年	-3.3	-3.7	4.1	-7.7	-4.0	-4.9	-15.4	-	-	-	-	8.3
2019年	0.2	0.2	7.4	-2.0	-4.7	0.0	9.1	-	-	-	-	0.0
2020年	2.1	2.6	12.6	-5.7	3.5	2.6	-33.3	-	-	-	-	-20.5
2021年	5.0	5.1	5.0	1.3	0.0	22.9	-12.5	23.6	13.8	27.5	-6.5	

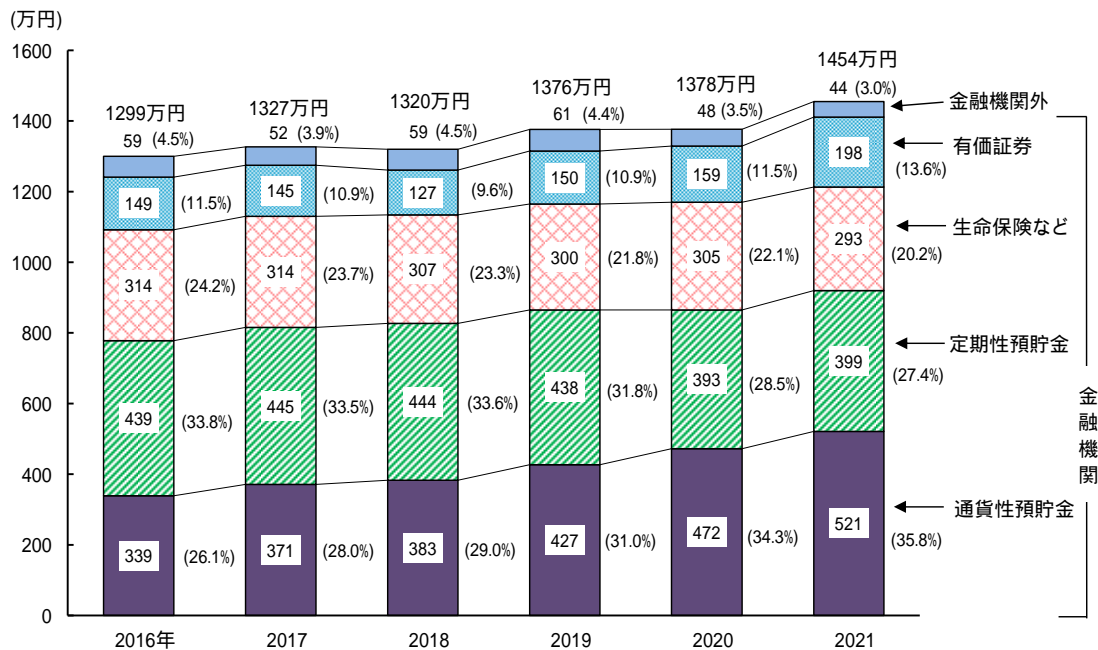
注) 「-」は、調査票の改正により、時系列比較できない部分

このうち勤労者世帯についてみると、通貨性預貯金が521万円（貯蓄現在高に占める割合35.8%）と最も多く、次いで定期性預貯金が399万円（同27.4%）、「生命保険など」が293万円（同20.2%）、有価証券が198万円（同13.6%）、金融機関外が44万円（同3.0%）となっている。

2020年と比べると、通貨性預貯金、定期性預貯金及び有価証券は、増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ49万円、10.4%の増加となり、比較可能な2003年以降増加が続いている。一方で、「生命保険など」及び金融機関外は、減少となっている。「生命保険など」は、前年に比べ12万円、3.9%の減少となり、2年ぶりの減少となっている。

（図I-2-2、表I-2-2）

図I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注）（ ）内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関									金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	貸付信託 金銭信託	株式	債券	投資信託		
金額 (万円)											
2016年	1299	339	439	314	149	12	-	-	-	-	59
2017年	1327	371	445	314	145	9	-	-	-	-	52
2018年	1320	383	444	307	127	4	-	-	-	-	59
2019年	1376	427	438	300	150	7	-	-	-	-	61
2020年	1378	472	393	305	159	6	82	17	55	-	48
2021年	1454	521	399	293	198	5	106	15	73	-	44
構成比 (%)											
2016年	100.0	26.1	33.8	24.2	11.5	0.9	-	-	-	-	4.5
2017年	100.0	28.0	33.5	23.7	10.9	0.7	-	-	-	-	3.9
2018年	100.0	29.0	33.6	23.3	9.6	0.3	-	-	-	-	4.5
2019年	100.0	31.0	31.8	21.8	10.9	0.5	-	-	-	-	4.4
2020年	100.0	34.3	28.5	22.1	11.5	0.4	6.0	1.2	4.0	-	3.5
2021年	100.0	35.8	27.4	20.2	13.6	0.3	7.3	1.0	5.0	-	3.0
対前年増減率 (%)											
2017年	2.2	2.7	9.4	1.4	0.0	-2.7	-25.0	-	-	-	-11.9
2018年	-0.5	-1.1	3.2	-0.2	-2.2	-12.4	-55.6	-	-	-	-13.5
2019年	4.2	4.4	11.5	-1.4	-2.3	18.1	75.0	-	-	-	-3.4
2020年	0.1	1.1	10.5	-10.3	1.7	6.0	-14.3	-	-	-	-21.3
2021年	5.5	6.1	10.4	1.5	-3.9	24.5	-16.7	29.3	-11.8	32.7	-8.3

注）「-」は、調査票の改正により、時系列比較できない部分